

このニュースレターは、教育機関ならびに企業のご担当者さまその他の方に、教育機関でビジネス教育を行う背景や学習の様子をお知らせしたり、指導を担当する方へ向けて指導のポイント・アイデアを紹介するものです。

バックナンバーを公式サイトでご覧いただけます

データの数字を正しく読み取り、説得力のある情報にして仕事に活かす

数字で考え、数字で伝えるメリットは、仕事上の問題発見と解決、改善に大きな役割を果たすことだと言えます。また、どんなにいい提案や企画であっても、具体的な根拠が数字で示せなければ説得力に欠けるため、上司の決裁が下りる可能性は低いでしょう。

数学が不得意だったので数字で考えるのが苦手という人がいますが、それは「数字を読み取る」ことに慣れていないだけで、着眼点に気づくようになれば苦手意識は徐々に解消されます。読み取った後、四則演算を適切に使うことに慣れて、データからさまざまな仮説を立てることや、検証ができるようになると確実に仕事の幅が広がるはずですよ。

報告の際、単にデータとして「数字」を伝えるだけでは意味がありません。「数字」を用いて伝える「情報」にこそ意味があると言えます。



「4月のA店の売上は950万円だった」だけでは、それが実績として良いのか悪いのかわかりません。前月や前年同月と比べてどのくらい金額や割合が増減したかを、その要因とともに「数字」で示すことで初めて問題点の発見や改善、解決につながる有効な「情報」になります。たとえば、「前年同月比で店舗売上は20%減少したが、ネット販売は50%増加し、総売上は前年同月比95%で、直近1年では他店でも同じ傾向がある」という説明があれば、今後の対策に役立つ情報になるわけです。

今回は、令和7年度後期3級 問題7(4)を見ていきましょう。

問題7. 次の<資料1>、<資料2>は、ドラッグストアを運営している企業の3店舗（A店：都市中心部の駅近店舗、B店：住宅街の駅前店舗、C店：郊外のロードサイド店舗）における、1年間の店舗・商品カテゴリごとの売上高と利益率を示したものである。これらの資料を見て各問に答えよ。

(グラフ略 公式サイト・過去問題掲載 https://bken.sgec.or.jp/img/jobpass-problem/r_07second-3.pdf)

(4) <資料1>、<資料2>から読み取れる店舗・商品カテゴリごとの利益に関する記述について、適切なものを選択肢から選べ。

【選択肢】

ア. 各店舗で利益がもっとも大きい商品カテゴリは、「医薬品」である。

イ. A店の商品カテゴリごとの利益を見ると、「医薬品」の利益は、「日用品」と「食品」の利益の合計よりも大きい。

ウ. B店の「化粧品」とC店の「医薬品」の利益は、同額である。

正解：イ（正答率 22.1%） *アの解答率 50.6%

この設問の正答率が低かったのは、単位が異なる数字（金額と割合）を混同して解答したためと推察されます。＜資料 1＞と＜資料 2＞のデータをクロスさせて考える（計算する）ことを意図した出題ですが、アとウを解答した半数以上の受験者は＜資料 2＞だけを見て解答したとしか考えられません。

この問題は、3 店舗それぞれの商品カテゴリー別売上高と利益率のデータがグラフになっています。店舗によって、利益額に最も貢献している商品カテゴリーは異なっていますが、ただ単にグラフの数字を見ただけでは正確に読み取れません。簡単な計算が必要になりますが、その場合も数学（あるいは算数）が得意かどうかは一切関係なく、どの数字に着眼して計算式を立てるかが重要で、それがわかれば答は容易に出せます。

今回の設問(4)の選択肢ア～ウの正誤を確認するためには、＜資料 2＞のそれぞれの利益額を算出して比較する必要がありますが、＜資料 1＞と＜資料 2＞のグラフに表示されている数字を用いて、どんな計算式を立てれば算出できるかを考えるのがポイントです。

この場合、＜資料 1＞の売上額に＜資料 2＞の利益率を掛け算すれば、すべての店舗・商品カテゴリーごとの利益額が算出できます。

このようなグラフや表で示されたデータの数字は、資料によって単位が異なっているケースが多いものです。まずは単位の違いを確認し、その関連性を発見して演算することに慣れていけば、新たなデータを作成することが可能になるだけでなく、数字を使って（操作して）具体的に物事を考える習慣も併せて身につけられるようになります。

特定の業種や職種を除けば、多くの職業人にとって、わかりやすい（見やすい）資料を作成することが仕事の中心ではありません。大切なことは、資料から何を読み取り、どう活用していくかを考えて決断し、実行に移すことです。

将来的に、A I を活用した効率的なデータ分析が普及することはあっても、A I が現場の仕事まで代行し、責任を負ってくれるわけではありません。ツールとしての A I が教えてくれる数字を、私たち人間が正しく読み取り、対応していく必要があることに今後も変わりはありません。これから社会人になる学生には特に心得てほしいと願っています。



演習問題

問題 7 の＜資料 1＞＜資料 2＞を読み取って、下記の設問を考えてみましょう。

1. C 店は 3 店舗の中で売上 NO.1 ですが、最も優良な店と言えるかを、資料 2 と合わせて考えてみましょう。
2. A 店と B 店の売上高は同額ですが、売上高構成比率は異なります。C 店も含め、それぞれの売上の特徴と立地場所、客層、棚割りを関連づけてどんな違いがあるかを考えてみましょう。

* 棚割り：どの商品をどの場所にどれくらいの量を陳列するか決めること

3. B 店が、利益率の高い「化粧品」の売上高を 50% アップさせるための売場づくり（価格設定や販売促進策を含む）を自由に考えてみましょう。

（元 金沢星稜大学女子短期大学部教授 山本 航）

発行 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団（TCE 財団）検定試験センター

©2024 Association for Technical and Career Education

ビジネス能力検定 日検
Jobpass
ジョブパス



★2026 年版公式テキスト
好評発売中